資料１－１

新しい県総合計画の「中間とりまとめ（案）」の概要

１　中間とりまとめの趣旨

○　総合計画審議会におけるこれまでの調査審議の内容を整理し，議論の大要をまとめたもの。今後，中間とりまとめの内容を基本としながら，県民の皆様のご意見なども踏まえ，さらに具体的な内容について調査審議を進めていく。

【 基 本 構 想 】（2050 年頃を展望）

※計画名称については，今後，基本理念に合致した名称を検討 。

２－１　時代の潮流と茨城の特性

（１）時代の潮流（県民が一体となって対応すべき重要な視点）

- 急激な人口減少と超高齢化の進行
- 社会経済のグローバル化と交流の拡大
- 大規模自然災害の切迫とインフラの老朽化
- 資源・エネルギーの制約や地球環境問題の深刻化
- 情報通信技術（ＩＣＴ）等の劇的な進歩
- 生活の安全と安心を求める意識の高まり
- 価値観の変化とライフスタイルの多様化
- 女性が活躍する社会づくりの要請
- 地方分権改革及び広域行政の進展
- 2020 年東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ･ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ及び茨城国体の開催

（２）茨城の特性

- 恵まれた地理的・文化的な特性
（豊かな自然･暮らしやすい環境･長い歴史と文化など）
- 多様な産業と科学技術の集積
- 国内外を結ぶ広域交通ネットワークの形成

２－２　いばらきの目指す姿

（１）基本理念

（ 仮称 ）**『 みんなで創る　○○○　いばらき 』**

※『みんなで創る ○○○ いばらき』を基本フレームとし，今後，「明日」，「未来」，「次世代」などをイメージできる言葉を取り入れる。

○　質の高い生活環境のもとで，雇用がしっかりと確保され，誰もが個性や能力を発揮しながら主体的にいきいきと活躍できる「人が輝く元気で住みよい いばらきづくり」に取り組んでいきます。
○　県や県民，市町村，企業，大学，研究機関，ＮＰＯなど，「みんな」で連携・協働して“いばらきづくり”に取り組みます。
○　本県の持つ優れた地域資源を磨き，最大限に活用しながら，新しい価値を創造し，日本の発展の一翼を担うとともに，国内外から多くの人を引きつける“きらめく”いばらきを目指します。

（２）県民の求める『いばらき』

○ 県民選好度調査，大学･高校生ｱﾝｹｰﾄ等で約 5,000 人の県民意向を把握
○ 市町村意向調査で各市町村の意向をヒアリング
○ 明日の地域づくり委員会等各種懇談会で各地域の課題をヒアリング

⇒

○ 老後の安定した生活，保健・医療・福祉の充実
○ 防犯・防災がしっかりした安全・安心な暮らし
○ 結婚・出産・子育て支援の充実，女性の活躍促進
○ 世界を視野に入れた教育，郷土愛教育の推進
○ 競争力ある産業の振興，産業を支える人材の育成　など

（３）目標と将来像

『 人が輝く　いばらき 』

【将来像】
○ 学校・家庭・地域で育まれた，確かな学力・豊かな心・健やかな体を備えたたくましい人材が，地域をしっかりと支えながら，世界を舞台に活躍しています。
○ 互いに違いを認め合い，一人ひとりが尊重されて，誰もがいきいきと活躍している社会が形成されています。
○ 様々なところで色々なことを生涯にわたって学び続けられる環境が整備されるとともに，文化・スポーツなどを通じて，誰もが健康で明るく心豊かな人生を送ることができています。

『 活力ある　いばらき 』

【将来像】
○ 科学技術研究の進展や異分野・異業種間ネットワークの活性化等により様々なイノベーションが絶え間なく生まれており，日本の経済をリードする新技術・新産業の創出に繋がっています。
○ 企業立地が一層進むとともに，ものづくり産業の高付加価値化，商業・サービス産業の育成などにより，持続的に雇用を産み出す産業が育っています。
○ ニーズを捉えた安全・安心で高品質な農林水産物の供給により，高い収益性が確保され，意欲ある担い手による魅力ある農林水産業が育っています。
○ いばらきの魅力や価値が国内外から広く認められ，人・もの・情報といった多様な交流が盛んな社会が形成されています。

『 住みよい　いばらき 』

【将来像】
○ ＩＣＴなどの技術も活かしながら，誰もが適切な医療・保健・福祉サービスが受けられる環境が整うとともに，結婚・出産・子育ての一貫したサポート体制が充実した社会づくりが進んでいます。
○ 地域社会とのつながりが保たれたまちで，誰もがやさしさと潤いを感じながら快適な日常生活を送っています。
○ 大規模災害や犯罪，原子力災害などに対する生活の安全がしっかり確保され，安心して暮らし続けられる社会が形成されています。
○ 豊かな自然を守り，上手に活かしながら，人と自然が共生する生活を送っています。

２－３　計画推進の基本姿勢

○ 全員参加のいばらきづくり
○ 適切な進行管理と行財政改革の推進
○ 地域資源の発掘と最大限の活用
○ 部門別計画との役割分担
○ 広域連携と権限移譲

【 基 本 計 画 】（5年間:H28～32 年度）

３－１　政策展開の基本方向

３つの目標に対応する施策を１１の政策分野に体系的に整理。

Ⅰ「人が輝く いばらき」づくり

(1) 地域と世界の未来を拓くたくましい人づくり
(2) 一人ひとりが尊重され活躍できる社会づくり
(3) 生涯にわたって学び合う環境づくりと文化・スポーツの振興

Ⅱ「活力ある いばらき」づくり

(1) 科学技術を活かしたイノベーションの推進
(2) 日本の発展をリードする力強い産業づくり
(3) 農林水産業の成長産業化
(4) 人･もの･情報が活発に行き交う交流社会づくり

Ⅲ「住みよい いばらき」づくり

(1) 少子高齢化に対応した医療・保健・福祉が充実した社会づくり
(2) 人にやさしい快適な生活環境づくり
(3) 安全・安心な暮らしが確保された社会づくり
(4) 人と自然が共生する持続可能な環境づくり

３－２　地域づくりの基本方向

県内各地の地域資源を最大限に活用しながら，特色ある地域づくりを進める。

(1) 目指すべき地域の姿

○　産業振興や雇用の場の確保，交流人口の拡大を図り，地域間競争に勝ち抜くことのできる地域
○　災害への対応力，医療･保健･福祉，食の安全確保等が充実し，安心して子育てができ，誰もが安全・安心に住み続けることができる地域
○　一人ひとりが生きがいや充実感を感じ，心豊かな生活ができる地域

(2) 地域づくりを推進していくための３つの視点

○ 新しい「協働」による地域づくり
○ 愛着や誇りのもてる地域づくり
○ 地域間連携と広域的な視点に立った地域づくり

(3) 地域区分の考え方

○　現計画と同じ6地域区分（「県北山間」「県北臨海」「県央」「鹿行」「県南」「県西」）を基本とする。
○　地域の境界は，経済圏，生活圏等の実状を踏まえながら弾力的なゾーン設定を行う。
○　ゾーンを越える課題に対応するため，隣接県との連携を含めて，ゾーンを横断する取組みについても記載する。

【 重点プロジェクト 】（5年間:H28～32 年度）

4　重点プロジェクト

優先して取り組むべき重点的･先駆的なテーマについて，「重点プロジェクト」を設定し，時代の潮流や本県の特性・優位性を最大限に活用しながら，積極的に課題の解決を図る。

〔プロジェクトのテーマ（案）〕
○ 地域医療･介護に関するもの
○ 防災･治安･交通安全に関するもの
○ 環境･エネルギーに関するもの
○ 結婚･出産･子育てに関するもの
○ 子ども･若者の育成に関するもの
○ 高齢者の活躍に関するもの
○ 女性が輝く社会づくりに関するもの
○ 競争力ある産業の育成と雇用の創出に関するもの
○ 農林水産業の成長産業化に関するもの
○ 国際化,観光･交流の拡大に関するもの
○ 県北地域の振興に関するもの
○ 茨城国体,東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ･ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸを契機とする取組に関するもの　など

※プロジェクトの具体的な内容等については，引き続き検討。

【これまでの検討経過】 (1) 総合計画審議会における調査審議の経過　(2) 懇談会等を通じた県民意向の把握　(3) 各種調査等を通じた県民や市町村の意向の把握